

# 一般社団法人 日本生態学会

## 2019年度 第2回通常理事会

1. 日時：2019年7月13日（土）13:00～17:15
2. 場所：東北大学東京分室 会議室B
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）  
（理事）占部城太郎、湯本貴和、永松大、三木健、黒川紘子、中川弥智子、久米篤、吉田丈人、内海俊介（Web参加）、大澤剛士、鈴木まほろ、陶山佳久、東樹宏和、中野伸一、可知直毅（全理事中15名参加）  
（欠席理事）巖佐庸、佐竹暁子、丑丸敦史、西廣淳、宮下直
  - ・監事：粕谷英一、陀安一郎
  - ・オブザーバー：仲岡雅裕、伊東明、小池文人
  - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数10名を超える15名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い占部城太郎会長を議長として議事を進行了。議事録署名者は、定款第46条に則り、占部城太郎会長、粕谷英一監事、陀安一郎監事とし、議事録作成者は永松大理事が担当することとした。

### 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・ 資料1に基づいて永松専務理事より平成31年度科研費（国際情報発信強化A）の内定通知があったこと（4月1日）、科研費（公開講演会）が不採択であったこと、琵琶湖賞授賞式および受賞記念講演が行われたこと（7月3日）、Wiley社にオーストラリアの源泉徴収を含めた出版費用として87万円を支払った（6月14日）ことなど、庶務報告12件、会計報告7件の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
  - ・ 資料2に基づいて仲岡編集長より編集状況、投稿規定の変更、特集企画、イギリス生態学会での3英文誌ブース出展予定、等の報告があった。
  - ・ **Data paper** はアブストラクト+メタデータを入れるようになったため将来的に出版ページ数が多くなる見込み。**Data paper** 特集は何号かに分けて掲載予定。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
  - ・ 資料3に基づいて伊東編集長より安全管理マニュアル別冊として7月中に出版予定であること、特集の投稿が増えていること、編集状況・投稿審

査状況・刊行状況の報告があった。

#### 4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より編集状況の報告があった。

#### 5. 大会報告 (ESJ66・67・68・フォーラム・公開講演会申請)

- ・ ESJ66 と 67 について資料 5 に基づいて内海理事より報告があった。

##### <ESJ66>

- ・ 参加者が多かったため収入が予想より多かったが会場費が高く赤字が約 300 万円になった。参加費の設定は実行委員会では難しく執行部の助言が必要。
- ・ 託児利用者が増えており実行委員会では判断が難しいことが多くなっている。また使用者マナーについての注意喚起が必要。
- ・ 学部生や高校生など会員以外の参加者が多くなっている。
- ・ 神戸大会で実施した大会改革（集会の種類、時間の枠、システム、申し込み方法等）は大きな混乱がなくうまくいったとの報告があった。

##### <ESJ67>

- ・ すでに 3 回の実行委員会開催されている。神戸大会の方針を踏襲する。
- ・ ポスター発表についてポスター賞申込 500 件、その他のポスター発表 500 件の上限を設定する。500 件を超えたら一般口頭発表にまわってもらい、それも溢れたら自由集会を削る方向性が報告された。

##### <ESJ68>

- ・ 永松専務理事より準備は順調に進んでいるとの報告があった。

##### <フォーラム>

- ・ 資料 5 に基づいて吉田理事より報告があり、フォーラムの位置づけについて会員もしくは大会参加費を支払っている非会員大会参加者は参加可、自由集会聴講券では参加不可であることが確認された。

##### <公開講演会科研費申請>

- ・ 今後の申請について、三木理事より実行委員担当者と過去の内容の情報共有をしながら応募準備を進めていきたいとの報告があった。

#### 6. 各種委員会報告

##### <自然保護>

- ・ 資料 6 に基づいて可知理事より神戸大会時の理事会で承認され提出した大浦湾の要望書についての報告があった。

##### <キャリア支援>

- ・ 資料 6 に基づいて可知理事より神戸大会での取り組み、名古屋大会での企画などの報告があった。

##### <生態系管理>

- ・ 資料 6 に基づいて占部会長より生態系管理演習準備状況、委員会の今後

の体制についての報告があった

<琵琶湖賞>

- ・ 資料 6 に基づいて占部会長より生態学琵琶湖賞実施報告があった。
- ・ 次回の 2021 年が琵琶湖賞 30 周年と滋賀県「琵琶湖の日」制定の 40 周年であるため、滋賀県より一緒に何か企画できないかとの提案があり、来年 7 月頃に滋賀県と話し合いを持つことになった。

7. 学術会議・学術システム研究センター（学振）報告

- ・ 吉田理事より学術会議生態科学分科会は今年度まだ開催できていないとの報告があった。
- ・ 占部会長より学術システム研究センター（学振）の活動内容について報告があった。

8. 英文誌 3 誌運営状況報告

- ・ 久米理事より英文 3 誌の運営状況報告があった。
- ・ 11 名のグループで運営、5 月からツイッター担当も加わっている。
- ・ 3 誌合同編集になり **Population Ecology** では初回審査期間がこれまでで最短になった。
- ・ 2018 年の IF は **Ecological Research 1.546**、**Population Ecology 1.512**、**Plant Species Biology 2.077**（過去最高）であった。
- ・ 編集には安定したメール送受信とファイル共有環境が不可欠であり現在の問題点解決のため、**G Suite** 利用の希望が報告され検討を継続することになった。

9. INTECOL 報告

- ・ 中野理事よりメンバーシップ金について INTECOL 会長と協議中との報告があった。日本生態学会は 2017 年から 3 年分の支払いを保留中。
- ・ INTECOL ボードメンバーも入れ替え予定との報告があった。

10. サーバ保守契約およびトラブル対応報告

- ・ 資料 7 に基づいて大澤理事より 4 月のサーバトラブルで 30 万円と年間サポートチケット 30 万円の支出があったことが報告された。

11. 若手支援報告

- ・ 資料 8 に基づいて大澤理事より神戸大会で開催の若手対象フォーラムで 25 名の参加があり、参加者の感想からもこれからも継続できれば良いと思われるとの報告があった。
- ・ 生態学若手の集いより、神戸大会のフォーラムでアカデミアに残った方の話が興味深かったので継続してほしいと依頼があったとの報告があった。

## 12. 分子生物学会との連携報告

- ・ 資料 9 に基づいて占部会長より報告があった。

## 13. その他 (JpGU 視察・生物科学学会連合)

### <JpGU>

- ・ 資料 10 に基づいて黒川理事より、JpGU が特に林学・農学・生態学、情報科学との連携強化を望んでいること、大会開催の事務局が固定されているので運営のノウハウが蓄積されていること、高校生・学部生に対するキャリア支援の取り組みが盛んであることなどが報告された。

### <生物科学学会連合>

- ・ 資料 10 に基づいて占部会長より報告があった。

## 審議事項

### 第 1 号議案 会員動向分析ワーキンググループ設置について

- ・ 資料 11 に基づいて占部会長より説明があり、会員動向分析ワーキンググループ設置が全会一致で承認された。

### 第 2 号議案 広報ワーキンググループ設置について

- ・ 資料 12 に基づいて中川理事より説明があり広報ワーキンググループ設置が全会一致で承認された。
- ・ 今後はメールとウェブ上の会議を中心に、分野・年齢構成などいろいろな意見を聞いて広報戦略を考える。

### 第 3 号議案 委員会について (委員の承認・英語表記)

- ・ 資料 2 に基づいて仲岡 ER 編集長より説明があり新 ER 編集委員が全会一致で承認された。
- ・ 資料 3 に基づいて伊東生態誌編集長より説明があり、次期生態誌編集長として永光輝義編集幹事が全会一致で承認された。
- ・ 資料 13 に基づいて占部会長より説明があり大会企画委員・選挙管理委員・琵琶湖賞運営委員が全会一致で承認された。
- ・ 資料 13 に基づいて占部会長より説明があり、審議して、委員会英語名は **Committee** を後ろに揃えることになった。

将来計画専門委員会 Strategic Planning Committee

自然保護専門委員会 Nature Conservation Committee

生態学教育専門委員会 Ecological Education Committee

キャリア支援専門委員会 Career Support Committee

大規模長期生態学専門委員会 Large Scale and Long Term Ecology Committee

生態系管理専門委員会 Ecosystem Management Committee

学会賞選考委員会 ESJ Awards Committee

第4号議案 保全生態学研究オープンアクセス化について

- ・ 資料14に基づいて小池保全誌編集長より説明があり、保全誌をオープンアクセス化する方向性が全会一致で承認された。
- ・ 一般会員には学会ウェブサイトの会長メッセージで知らせることになった。

第5号議案 大会について（参加・懇親会費、託児、ESJ69）

- ・ 資料5に基づいて内海理事より説明があり、ESJ67大会参加費はESJ68と同額、懇親会費は事前申込が一般10,000円・学生5,000円、当日申込が一般11,000円・学生6,000円とすることが全会一致で承認された。
- ・ 資料15に基づいて内海理事よりESJ67で託児費用が高額になる旨の説明があり審議したが、例年と同じく大会会場内にて託児サービスを実施することが全会一致で承認された。
- ・ 粕谷監事よりESJ69の会場と会期について説明があり、ESJ69を福岡国際会議場にて2022年3月15日～19日で開催することが全会一致で承認された。

その他

1. 日本学術振興会賞への推薦手順について
  - ・ 東樹理事、占部会長より説明があり、推薦手順については会長・執行部に一任することになった。
2. 学会員へのメール一斉送信使用について
  - ・ 占部会長より委員会からの案内を学会員への一斉メール配信を使うことが推奨された。

閉会：以上の議事を終え、17時15分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2019年7月16日

会 長 : 占部 城太郎 ㊟

監 事 : 粕谷 英一 ㊟  
陀安 一郎 ㊟